

世界のエネルギー市場と北東アジア

国際エネルギー・フォーラム (IEF) 事務局長

孫賢勝

世界の視点

世界のエネルギー需要は、2040年までの経済成長のために拡大し続けるだろう。主要エネルギー会社による予測では、GDPの年平均上昇率は、非OECD諸国とOECD諸国で4.1%から1.7%とされている。石油や天然ガス・LNGの増加が優勢であるとともに、再生可能エネルギーが力強い成長を続け、2040年までのシナリオでは世界のエネルギー消費の17%~25%に達するだろうと予測されている。石炭需要は2020年以後安定水準に達し、原子力発電は緩やかな成長を示し、それぞれ2040年の世界のエネルギーミックスのおよそ20%と5%を占めるだろう。化石燃料の中でもガスの需要が最も急成長する一方、エネルギー電力需要が経済成長の40%を占めるだろうことは、中国とインドが北東アジアの他の非OECD諸国とともに導く新しい地域パターンといえよう。

石油市場の安定性における投資

新しい車両技術が注目を集めているが、2040年まで、あるいはそれ以降も、交通機関は依然として内燃機関エンジンによって駆動されるだろう。石油需要の増加は減速するだろうが、大方の予想では、工業・石油化学製品部門では重要であり続けるだろう。米国ではシェールオイルの増産が著しいが、2020年代にはシェールオイルや非OPEC諸国の生産が減速し、その低下率の補償や安定供給を維持するために、在来型上流資源の新規生産への投資は不可欠である。3年連続で投資が落ち込んだ後、在来型石油における上流投資は国立石油会社によってわずかに復活が見られ、2014年に起きた石油・ガス市場の落ち込み前の低いレベルを持ちこたえている。展望は示すものの市場方向性を欠くような様々な政策と技術的な隘路による不安定性と解決不確実性を減らすためには、より多くの対話が求められる。これにより、安定性が向上し、冬季プロジェクトレベルでの投資・政策環境がより予測可能なものとなるだろう。

北東アジア（中国、ロシア、日本、韓国）

成長とイノベーションの世界センターとして、北東アジアは、より安全で持続可能なエネルギーの未来を実現するため、エネルギー部門の変化をけん引する役割を演じることになる。公共の健康、エネルギー安全保障、人々の利益は、LNG、太陽光、風力、バイオ燃料、水素などの先進の天然ガスや再生可能エネルギー技術による相互強化努力によって確保されるとともに、増加する発電、デジタル化、二酸化炭素の回収貯蔵等イノベーションの選択肢は、北東アジアのエネルギーシステムの相乗効果の向上を確かなものとし、人口増や都市化、気候変動による諸課題に応えることができるだろう。天然ガス、再生可能エネルギー、エネルギー効率の向上を各産業クラスター横断的に進めることにより、温室効果ガスの排出を削減しながら手頃な価格でエネルギー市場の安定性を維持することは、北東アジア各国がとるべきエネルギー政策と技術方向性のカギとなる。データはどこまで示しているか、何に学ぶことができるか、北東アジアは世界のブレークスルーとなるだろうか。

[ERINAにて翻訳]